

## 反一貧困 『世直しイッキ！大集会』に参加しました！！

2008年9月15日

今日本は先進国中、貧困率第2位といわれるほど格差や貧困が広がっています。'95年あたりから本格化した新自由主義の流れのなかで、規制緩和の嵐と際限のない証券化により、かつては国民の8～9割が『中流』と感じていたものが、信じられないほどの速さで階層が二極化しました。これは当然のように多くの貧困者を生み出しました。

「これではイカン！」と立ち上がった人々がいます。立場が違って「垣根を越えてつながろう!!」を合言葉に、貧困というお化けを退治するため全国キャラバンに出かけました。ひとりでも

キャラバン活動の成果が各地域から報告されました。

その後、12もの分科会に分かれて反貧困について考えました。住まい・労働・食の危機・死刑廃止・多重債務と消費者問題・コトバの貧困・社会保障・後期高齢者医療制度・女性

と貧困・子ども・フェアトレード・語り合いの場……分科会のテーマを書き連ねると貧困の根深さと幅広さを実感せざるを得ません。

私は社会保障分科会に参加しました。『社会保障費を増やせ!! 2200億円削減はもう限界』をメインテーマに、十を超える立場の方々からの発言と報告を分かち合いました。ここで一番感じたこと



作家・雨宮処凛さん



宇都宮健児弁護士

多くの人たちにこの問題を訴えかけ、ネットワークを広げるためです。

この集会はそのキャラバン隊の到着イベントから始まりました。多重債務者問題で有名な宇都宮健児弁護士(反貧困ネットワーク代表)の挨拶と、3ヶ月以上にわたるキャラ



渋谷にて  
「反貧困！生きさせろ!!」「反貧困！生きさせろ!!」

は、貧困化はかつて中流だった人が下流になるばかりではなく、いわゆる『弱者』はさらに追い詰められ、生存そのものが脅かされているということでした。今やこの国では、社会の底が抜けていることを改めて確認しました。

最後は夕暮れの街に出た反貧困パレードです。会場の明治公園から青山を抜けて表参道、渋谷のコースをたどりました。東京でも最もリッチそうなところで貧困反対の街頭宣伝です。旗指物がひらめき、鳴り物を響かせながらのパレードは、

やはり現代版イッキの風情でした。

主催者発表で 2000 人が参加した集会は、好天にも恵まれ成功裏に終わりました。これは立場を越えて2年にわたり地道に活動し続けた成果ですが、やはり人々の関心の強さ、事態の深刻さが背景にあるように思いました。

(会員・貧困亭馬車馬)

## 死刑を考える日——映画「休暇」で見る死刑執行の実際

2008年10月16日

裁判員制度がもうすぐ始まります。死刑または無期の懲役もしくは禁錮にあたる罪にかかる刑事裁判において、国民から裁判員が選ばれ、裁判官とともに審理に参加する制度です。2009年5月21日に施行され、7月下旬以降に実際に裁判員が加わる裁判が開始される予定です。



この制度の実施を前に、事案によっては裁判員（わたしたち市民）が関わることになるであろう「死刑」とは、そもそもどのような刑罰か。このことについて考えるイベントが催されました。

保坂展人衆議院議員（「死刑廃止を推進する

議員連盟」事務局長）は、東京拘置所に刑場を視察



した様子を絵を見ながら説明し、「誰が死刑制度に一番踏み込んでいるのか。それは刑務官であり、人の命を絶つという舞台装置で働くという心理的負担は計り知れない」と述べました。

そして、「国会で死刑について考えているか」と

いう質問に対して「相当考えている。しかし、死刑制度存続という風潮があり、廃止を訴えると批判される現状がある。その中で私たちは、死刑については全員一致でなければならぬ、また、死刑ではなく終身刑にできないかという訴えを続けている」と述べました。

### 映画「休暇」鑑賞

(監督：門井肇、2007年)

この作品は、吉村昭の同題の小説（短編集『蜚』に収録〔中央公論新社、1989年〕）を映画化したものです。

死刑確定者の拘置所における日常生活、死刑執行までの流れ、刑務官の苦悩などが描かれています。死刑の執行すらも「淡々と」描かれていました。ひたすら淡々とした中で、この人たちはいったいどういう心境で死刑というものに臨んでいるのかを、自分だったらどうかという視点で見えていました。「仕事だから」と割り切れるのか。ただ、ワンシーンだけ、刑務官が感情をあらわにするシーンがありました。そこでの「人の命をなんだと思っているんだ」「あなたもこの仕事でメシ喰ってるんじゃないですか」というやりとりは、この作品が一番言いたかったこと（人が人を殺すということ）であり、わたしたちが考えるべき問題だと思いました。

映画の上映後、岩井 信弁護士が日弁連での死刑問題に取組みについて「死刑を望む弁護士はいません。死刑を停止して、日本全体で考えようという提案をしています」と、弁護士として、また人として死刑に対する思いを述べました。



裁判員制度がもうすぐ始まります(法務省の赤レンガ脇)

わたしたちは「死刑」という言葉は知っていても、死刑の実際を知る機会はほとんどありません。死刑がひどい犯罪に対して抑止効果があるという方に

は、今回の映画のような死刑の現実を見せて、考えてもらう必要があるのではないかと思います。

(T本)

## news; 新企画！『人権・平和のための語学教室 (仮)』のお知らせ

さまざまな言語で書かれた、人権や平和についての文章を原文で読んでみませんか？

その国の豊かな精神文化に触れて、何か一つ言葉を覚えて帰れば、それまでとちがった視点で物事を見ることができるようかもしれません。

同時に、「人権や平和の尊重」のテーマは、世界共通の普遍的なものであるということを確認する機会になるのではないのでしょうか。詳しい情報が決まりましたら、ホームページ <http://www.hurp.info/index.html> にてお知らせしますので、ぜひお越しください！



写真は3周年記念イベントでの「軍隊のない国々」

## news; 『08年秋！憲法を本質的に考えるリレーレクチャー』のお知らせ

HuRPの理事長で、法学館憲法研究所首席客員研究員の浦部法穂教授と、同じく理事の水島朝穂教授が講師を務める『08年秋！憲法を本質的に考えるリレーレクチャー』をご紹介します。ふるってご参加ください。

戦後最大の曲がり角ともいえるこんにち、戦後社会に果たしてきた日本国憲法の役割について、憲法の基本的考え方から捉え直すことがいよいよ重要となっています。07年に憲法改正の手続法が制定され、憲法改正国民投票が将来実施されることも念頭に、憲法について本質的に考えてみます。

【日時・テーマ・講師】

第3回 11月15日(土)13時～17時

## 「雇用、福祉、生活のあり方と 日本国憲法」

講師：森 英樹氏（龍谷大学教授・法学館憲法  
研究所客員研究員）

協賛：NPO法人「POSSE」

第4回 12月6日(土)13時～17時

## 「世界史の中での日本国憲法の 意義」

講師：浦部法穂氏（名古屋大学教授・法学館憲  
法研究所主席客員研究員）

協賛：歴史教育者協議会

【会場】 伊藤塾高田馬場校（高田馬場駅早稲田  
口から徒歩3分）

【入場料】 各回 1000 円（法学館憲法研究所賛助  
会員・学生・伊藤塾塾生は 500 円）

<全4回通しで参加される方は 3000 円（法学館  
憲法研究所賛助会員・学生・伊藤塾塾生は 1500  
円）>

【主催・問合せ先】

法学館憲法研究所

電話 03-5489-2153 fax 03-3780-0130

E-mail info@jicl.jp

カラダに平和を 自炊のススメ

## 29 しいたけの甘辛卵とし

先月に引き続いて、秋の味覚、しいたけで一品つ  
くりました。会社の人にしいたけをいただいたので  
すが、その大きさにビックリ！ふつうイメージする  
しいたけの3～4倍はあるかという巨大しいたけ  
です（写真に撮っておけばよかった！すみません！）。

材料：しいたけ、卵、酒、しょうゆ、砂糖

手順：

1. しいたけをひとくち大の大きさに刻む。
2. フライパンに酒、しょうゆ、砂糖、水を入れ、火  
にかける。
4. 煮立ってきたら、しいたけを入れ、弱火で5分くらい煮る。
5. 溶き卵を流し入れ、ふたをして火を止める（お好みの時間で卵の半熟具合を調節できます）。

今回はお弁当のおかずにしたので、ちょっと濃いめの味付けで、卵にしっかりと火を通して作りました。  
ごちそうさまでした！



〇〇の秋といいますが、秋晴れの日にはふと家を出ようとすると、  
家の前の段差のわずかな隙間に草が生えていて、それがなんとも  
いい感じだったので、写真を撮りました。まるで自分がガーデニ  
ングをしているようで、楽しくなりました。みなさまの〇〇の秋  
はいかがですか？

(T本)



特定非営利活動法人「人権・平和国際情報センター」(HuRP: ハーブ)  
Human Rights and Peace Information Center JAPAN (HuRP)

〒101-0065 東京都千代田区西神田2-7-6 川合ビル41号室 TEL&FAX 03-3234-3231  
e-mail hurp@hurp.info HP <http://www.hurp.info/>